

意見書

はじめに、

あの未曾有の大震災から早6年を経過しようとしています。町の復興は関係各位のご尽力により、目に見える形で進んでおり、地域コミュニティの拠点である地区避難所や、防災拠点施設として整備された生涯学習センターなどが完成しました。更には全ての災害公営住宅が完成したことにより、入居者へ引き渡しされ新たな生活が始められたことは喜びうれしい限りであります。

また、平成26年度で七ヶ浜中学校新校舎が完成したことにより、学校給食センターをはじめとする学校関係施設は全ての復旧工事が完了しており、平成27年度から通常どおりの学校運営ができたことは、これもひとえに町当局のご尽力された方々のたまものと心から敬意を表します。

1. 教育委員会等について

七ヶ浜町教育委員会の伝統的活動を保ちながら、「動く教育委員会」「説明責任のできる教育委員会」として、定例会ごとに学校訪問や授業参観、学校長との意見交換をされ、震災による児童、生徒への心身の影響にも配慮しつつ、毎月の定例会議を12回及び臨時会を2回開催し、常に児童生徒に寄り添い、共にある教育委員会の取り組みを高く評価します。

また、任期満了に伴い鈴木教育委員が再任され、これまでの培ってこられた経験を生かし当教育委員会のさらなるご活躍を心から期待します。

<学校給食について>

学校給食を理解して頂くために、施設見学や保護者を対象にした試食会で好評を得たことや、食育指導として小中学校全学年に栄養士が学校に出向き、給食の時間に給食で使われている食材、食べ物の働き、成長期の食事などの食育指導を行ったことを評価します。

また、食を通しての更なる指導の充実を図り、今後とも命をつなぐ食の大切さの啓発と指導をお願いします。

2. 学校教育について

<学校運営の概要について>

七ヶ浜中学校の新校舎が平成26年に完成したことにより、学校施設の震災からの復旧工事が完了し、平成27年度から通常の学校生活が送れるようになったことを評価します。

また、平成26年度から開設した学校教育支援センターは、平成27年度も継続され、不登校児童生徒に対する取り組みは、これらの減少につながって着実に成果を上げています。学力向上と不登校対策を重点とした町当局の取り組みを高く評価し、更なる今後に期待します。

<児童生徒数の動向について>

小、中あわせて26年度は67名、27年度は49名の児童生徒の減がありました。震災の影響もありますが自然減によるものが大きな要因となっており、今後の動向を注視しながらの学校運営をお願いします。

<「ジョイント5」事業の充実と推進>

平成27年度は「学力向上」、「健全育成」、「ふるさと活動」、「防災・安全活動」、「広報活動」、「学校運営支援」の6本の柱をたて、児童生徒に対し、心身ともに健全な児童・生徒の育成を目指した町内各校の連携した取り組みを評価します。

「学力向上」においては、学力の定義を「考える力」として、全教員が目的意識を持ち、本時目標達成と考えさせる授業構成の授業改善に取り組み、学力向上を目標としていることを評価します。

また、「健全育成」については、学校教育支援センターを継続し、各学校では不登校問題対策委員会を中心に共通理解を図りながら、不登校の改善に取り組んでいることを評価します。

<全教員が授業研究に取り組み、指導力の向上を図る>

教員各々が授業に当たる上での共通理解として、目的意識（本時目標）の明確化を図ること、考えさせる場面を設定すること、授業の終わりに振り返りを行うことを共通理解として取り組んでおり、全教員が年2回の授業研究と事後検討会を実施して、全教職員の資質向上につなげる環境づくりを行っていることを評価します。更なる児童生徒の様子を把握しながら学力向上に取り組んで頂きたい。

<防災主幹と防災主任の位置づけと防災計画の立案と実践>

東日本大震災の経験を踏まえ、児童生徒の安全を考えると、防災教育の推進を図っていくことは非常に重要なことでもあります。

各学校に防災主幹又は防災主任を配置しており、防災安全活動会議を開催し、既存の防災計画の見直しや、緊急時の教職員の動員体制等、緊急時に速やかに対応できるように防災マニュアルの見直しを図っていることや、防災用品等の配置場所の確認を行っていること。また、防災マップ作りでは、関係機関と連携し、危険個所の把握や災害時の避難、避難場所等を相互に情報の共有化が図られていることを評価します。今後も更なる児童生徒の防災安全教育の推進についてお願いします。

<学校教育支援センターの充実と学校との連携活動>

平成26年度より、不登校対策として、生涯学習センター内に「七ヶ浜町学校教育支援センター」が設置され、このことにより不登校児童生徒数が、平成25年度から平成26年度末には大幅減となり、平成27年度は継続して事業を行っていることで、年度内に不登校や不登校傾向から登校へと改善された児童生徒数は8名おり、大きな成果があったことを高く評価します。

このことから鑑み、引き続き不登校児童生徒を減らしていくために、学校教育支援センター、学校、保護者、児童生徒の連携を図り、不登校児童生徒や不登校傾向の児童生徒への早期対応、親を支える体制づくりを整え、ネットワークづくりを支援し、心理的不安を抱えている保護者の相談や自立に対し支援をお願いします。

<東北福祉大生の学力向上支援の充実>

平成26年度から東北福祉大学と連携し、平成27年度は亦楽小学校、汐見小学校、向洋中学校へ東北福祉大生による学習支援が行われています。このことにより担任が児童の学習指導に費やす時間を増やすことができたり、夏休み期間中に「サマースクール」と「サマーフェスティバル」を開催し、夏休みの宿題や個別の課題支援により夏季休業明けの学習がスムーズに出来るようになったという効果がありました。

今後も東北福祉大学と連携し、町内の全小中学校がこの支援を受けられ、児童・生徒の学力向上に向け充実が図られるようお願いいたします。

3. 生涯学習について

<社会教育事業>

平成27年度は「生涯学習機会の充実」「生涯スポーツの振興」「芸術文化活動の振興」「歴史の保護・継承」「国際・国内交流の推進」の5つの重点施策の元、事業を行っております。平成26年度は改修工事によりできなかった事業がありましたが、平成27年度事業についてはほぼ行うことが出来たようです。

地域間交流事業において、「友好の町」山形県朝日町と山のつどい、海のつどいを開催し交流を深めています。今後更なる交流発展を期待します。

4年目となる文部科学省の認定を受け行った「協働教育プラットフォーム事業」については、家庭教育支援や学校支援、地域活動支援を行っており、地域全体での教育力向上とその活性化そして子どもを育てる環境づくりに取り組んでいることを評価します。

これからも利用者の要望に沿いながら学習の機会と事業を提供し、住民の満足度を高める生涯学習の普及をしていただきたくよう要望します。

<社会体育事業>

スポーツ施設の中には応急仮設住宅用地になっていて、使用できない施設があることはやむを得ないことではありますが、復興が一日も早く済み、本来の姿に戻ることを切に希望します。

しかし、限られた施設の中で影響を最小限に抑える工夫をし、事業展開を行ってきたことは評価します。

七ヶ浜健康スポーツセンター「アクアリーナ」では、町民が安全安心な環境で体力向上や健康増進に取り組めるよう努めており、アクアゆめクラブも限られた施設を最大限活用し、地域団体との連携の中で気軽に参加できるイベントの開催をし、コミュニティづくりを図っていることを評価します。

今後も使用可能な施設を有効に活用しながら、スポーツ施設の早期復旧を目指して生涯スポーツと地域コミュニティ推進をお願いします。

<公民館事業>

「花と緑の町づくり」事業は、環境美化とゆとりと安らぎのある地域づくりの高揚のため、今後とも継続していただきたい。

成人対象の各種講座教室については、延べ796人が受講しており、個々の趣味

と教養を高揚する場として好評を得ていることや、改修工事で開催できなかった生涯学習フェスティバルを2年振りに開催し、日頃の活動の成果を発表する場を提供されたことを評価します。

また、「生涯学習推進のつどい」では、元プロ野球選手を講師に招き、小学生から高齢者まで多くの参加者があったことや、出前セミナーでは、学習活動の支援で30回実施され、子ども会を始めさまざまな団体から延1,420人もの参加者が利用されました。

「生涯学習グループ活動支援事業」では、45団体、513人の登録があり、前年度より若干の減少となったものの、今後とも地域住民の活動拠点として大きく貢献して頂きたいと思います。

<老人福祉センター>

老人福祉センターの事業においては、年間の利用者が前年度より減少しているものの、災害公営住宅の利用者の利便性を考えバスルートを変更して利用者に寄り添っていることや、健康増進のための事業とレクリエーション事業では、多くの参加者があり、今後も高齢者の交流の場として、また、充実したひと時を過ごす生きがいつくりの場として、利用者の要望にそった事業展開を図っていただきたいと思います。

平成29年2月1日

学識経験者

七ヶ浜町主任児童委員

土 井 義 子